

宇宙のこころ、地球のこころ

宇宙文化の創造に向けて

人類がはじめて宇宙に持つ恒久的な活動拠点である国際宇宙ステーション (ISS) は、自然科学・工学分野のさらなる研究開発を促すだけでなく、科学技術と芸術そして人文諸科学の総合を通じて、地球の生命と文明に対する新たな視点や宇宙時代における人類の新たな自然観・生命観を形成していく契機になると思われます。

私たち「宇宙への芸術的アプローチ (AAS=Artistic Approaches toSpace)」研究グループは、それを促進する一つの方法として、「MUSE計画」を実行しています。

この計画は、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) および宇宙飛行士の方々と連携して、宇宙における芸術表現の意義と可能性、条件と方法を研究し、ISSの日本の実験モジュール「きぼう」を核とした宇宙環境における芸術プロジェクトの実現をめざして、具体的な提案と創作実践を行う共同研究プロジェクトです。

微小重力や閉鎖環境、地球や宇宙に開かれた新たな視野という宇宙環境の特性は、私たちの感覚や知覚、認識や価値観を変え、リアリティを変容させ、人間の生活様式や行動の変化を導くでしょう。それに対応して、人間の芸術表現やコミュニケーションの意義を原点に立ちかえて検討し、知性と感性の新たな結びつきの中から、宇宙で活動する人々にとってだけでなく、地上に生きるわれわれにとっても意義ある宇宙文化の創造を探ることが求められます。

今回、JAXAの宇宙飛行士である若田氏を迎え、これまでのJAXAとの共同研究についての報告会を行うことになりました。多くの方のご来聴をお待ちしています。

プログラム

開会 13:00

研究報告 13:30-15:45

微小重力環境の「ライナスの毛布」-security blanket-
宇宙における居住環境について
微小重力下における液状物質の造形実験
「宇宙庭」
「心の場」

講演 16:00-16:30

若田光一氏：宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙飛行士

ディスカッション 16:30-17:30

「宇宙のこころ、地球のこころ」



若田 光一 (わかたこういち)：宇宙飛行士

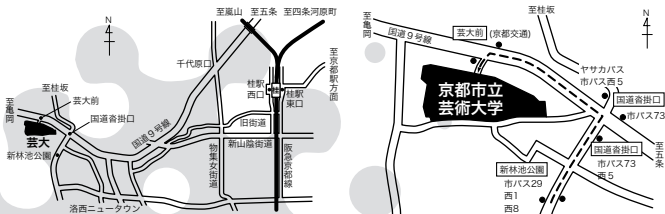
1963年 埼玉県大宮市 (現さいたま市) 生まれ
1992年 NASDA (現JAXA) の宇宙飛行士候補者に選ばれる
1996年1月11日~20日 スペースシャトル・エンターバー号に搭乗 (STS-72)
2000年10月12日~25日 スペースシャトル・デイスカバリー号に搭乗 (STS-92)

若田さんの宇宙滞在メモ

- 1 宇宙で初の普通道に挑戦。広島の筆と珈琲液 (墨汁を持っていけなかったため) で「宇宙へ」と書いた。
- 2 短歌「果てしなき 真闇の宇宙に 生き生きと 地球の草の 緑輝く」を詠んだ。
- 3 朝は「春の海」、「スターウォーズ」、「ターミネーターのテーマ」、「ゴジラのテーマ」、「栄冠は君に輝く (全国高校野球選手権大会の歌)」などの音楽で目覚めた。
- 4 宇宙で初の相撲に挑戦。「しこ」を踏んだ。
- 5 高校野球の公式ボールを使って、宇宙で野球を行った。(使用したボールで帰還後の甲子園夏の大会で地球式を行った。)
- 6 宇宙食として、味噌汁、白米、カレー、緑茶、ふるさとの草加煎餅等を持っていった。
- 7 宇宙で困暮を楽しんだ。

AASメンバー

福嶋敬恭	美術学部教授 / 彫刻	研究代表
野村 仁	美術学部教授 / 彫刻	
松井紫朗	美術学部助教授 / 彫刻	
中原浩大	美術学部講師 / 彫刻	
砥綿正之	美術学部助教授 / 構想設計	
池上俊郎	美術学部教授 / 環境デザイン	
藤原隆男	美術学部教授 / 宇宙物理学	
井上明彦	美術学部助教授 / 造形計画	



JR京都駅バスターミナル
C2のりばから京都交通バス亀岡行きまたは大原野方面行きに乗車、芸大前で下車 (約45分)
C5のりばから市バス73番に乘車、国道省掛口または新林池公園で下車 (約45分)

2004年11月22日[月] 13:00-17:30

京都市立芸術大学学生会館 入場無料

主催：京都市立芸術大学、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)